

中東情勢の現状と行方
～資源エネルギー・金融情勢の動向を左右する大国間パワーゲーム～

米国担当：渡部恒雄 客員研究員

<課題・関心事項> ※箇条書き 目安 3～5 件程度

- ① 米国のイラン政策の動向
- ② 北朝鮮からシリアへの核技術移転
- ③ 大統領候補の中東政策

<解説>

■ 上記① 米国のイラン政策の動向について

米国のイランへの武力行使について、ブッシュ政権の最後の仕事として、その可能性が払拭されていない。特にチェイニー副大統領およびエリオット・エイブラム NSC 次席補佐官(世界の民主化担当)のブッシュ大統領への影響力は相変わらず強い。もし、武力行使があるとなればどのレベルで計画され、どのようなシナリオを考えているのか。武力行使を望まない現実派勢力との駆け引きはどのようになっているのか。中東全域への影響は？

■ 上記② 北朝鮮からシリアへの核技術移転について

2007年9月にイスラエルがシリアの軍事施設を攻撃して以来、沈黙を保ってきた米国政府が、2008年4月24日に、シリアの核兵器開発用施設の写真や情報を公開し、この施設が北朝鮮の支援で建設されていた原子炉である可能性があることを示唆した。どのような意図があるのか？中東への影響は？

■ 上記③ 大統領候補の中東政策

民主党のオバマ候補と共和党のマケイン候補が、イランと交渉に条件をつけるか無条件で会うか、ということで論争を続けている。ブッシュ大統領は、イスラエルでの演説で、5月15日にイスラエルで演説したブッシュ大統領は、「うまく交渉すればテロリストや過激主義者と交渉できると考えている人がいる」として、かつてのナチス・ドイツへの宥和政策に例えて、オバマ候補の主張を暗に批判している。マケインとオバマで米国の対中東政策は大きく違ってくるのだろうか。それとも、単なるレトリック上の論争で、米国の基本政策は変わらないのか？